

『2021年度座談会実行委員会からの報告』

座談会実施の経緯 {2020年度～2021年度}

①2020年コロナ禍に於いて活動が極端に制限された訪問型(学校、施設など)ボランティアについて、アンケートをとり現状の把握と問題点、課題を掘り起こす。

・元々のボランティアの意義として訪問型ボランティアは対象者に必要とされているのか？

・訪問型ボランティアはコロナ禍での活動をどのように続けているのか？

・現状は？

アンケートの結果をこむ1会会員に提供した

アンケートの実施後に座談会を実施する計画を立てていた…次年度

②前年度からの計画であった座談会(訪問ボランティア対象)の実施

・2022年5月2日(土)10:00～12:00 開催

・2020年度のこむ1会アンケート結果とボラセンが行った対象者(施設など)に行ったアンケート結果をあわせ座談会を実施した。

・実施報告は次ページに記載

・2021年度 座談会実行委員会実施日

2021年9/25, 10/23, 12/1, 2022年1/20, 2/17, 3/23, 6/4, 7/2

『2021年度交流企画検討会からの報告』

コロナ禍に於けるフェスティバルの開催について以下のような議論が行われた

・小規模な形なら実施可能なのではないか

・パネル展示などは問題なくできる

・リモートもしくはオンライン YouTubeなどを考えられないか

・素人が作る YouTubeなどを果たして作ったとして効果があるのか

・人に来て貰うのか、配信だけにするのか

・コロナ対策として行える対策とその効果は

・飲食が可能か

・ターゲットは誰なのか…こむ1会の会員向けなのか、一般市民なのか

・2021年度 企画検討会実施日

2021年9/25, 10/23, 12/1, 2022年1/20, 2/17, 3/23, 6/4, 7/2

実施報告

2022年4月2日(土)こむ1会交流企画 座談会 With コロナの中で

グループ討議 A 班 東(自然保護協会) 三井(歌楽多笑一座) 太田(おあや座) 榎本(信天翁)

1.こむ1会の交流に関して

繋がるための人間関係(ジャンル毎)+共に活動できる時間(ジャンルにこだわらない)を考えるとこむ1会という基盤を有効に活用できないか

2.各サークルの活動について

・現状

ビデオに撮って観てもらおう

リモートボランティアの方法

コロナが収束するまで焦らず現状維持⇔行きたい、行きたくない⇔来て欲しい、来てほしくない

わざわざ繋がりたくないと思っている人もいるんじゃないか?

・今後の展望

ボランティアの活動の内容を変える

施設側(職員など)の話ではなく施設利用者はどう思っているのか?

訪問先の担当者が変わってしまい関係の継続が難しくなっている

オンラインやDVDを見てもらう際受け入れ側の都合(人手)もあるし上手くいかないこともあった⇔ボランティア側より1人現場に派遣すればどうだろう

3.フェスティバルに関して

コロナ禍の中実施できる形を模索してこむ1会フェスティバルのミニ版企画したい

屋外イベント、路上ライブ

規模(ボランティア側の人数、受け入れ側の人数)を区切って行う

話さない手話イベント

いつもの活動+アルファ(手話+歌、絵本+歌など)⇔繋がりがあれば良いのに、わざわざつながりたくない

つながることによってボラセンのオンラインも参加しやすくなるのでは?

若い人の興味が少ないなら、若い人同士若い人のボランティアを増やすイベント

4.その他

ニーズによっては、外部からのボランティア受け入れでなく、施設内地域内でボランティアがあれば良いのに

地域内でのイベントのやり方

オンラインや YouTube の導入、発表、拡散⇔ボランティアは素人なのに見せられる内容に仕上がるのか？ =果たして効果があるのか？

グループ討議 B 班 小林(シニアマジック) 大西(さわやか) 中小路(個人)
高原(個人) 歌楽多笑一座(松崎)

1. こむ1会の交流に関して

- (1) 座談会企画への参加者が少ない
- (2) こむ1会のグループの状況が分かりにくい。
- (3) グループ活動が十分できていない現状で、こむ1会の活動に参加しづらい。
- (4) コロナ禍の中訪問活動を行っているサークルもある。
- (5) コロナ禍の中でも訪問を希望する施設は有るが、施設側は何処に依頼するのか分からない所も有る。
- (6) ボラセンとの情報交換が上手く取れていない。

意見集約

こむ1会としての仲間意識が少ないし、情報交換もされていない。

2. 各サークルの活動

- (1) コロナ禍、40代から94歳迄居るので意見は割れるが、話し合っ、サークル独自の zoom 配信や社協オンラインサロンに参加している。
- (2) 社協オンラインサロンを初めて知った。
- (3) 高齢者には zoom は難しい。
- (4) コロナ禍の中訪問活動を行っているサークルもある。
- (5) ズーム不可のボランティア活動もある。

意見集約

他のサークルの活動内容を参考にすれば、コロナ禍の中でも活動できる。

上記1, 2の意見集約

座談会を継続して、こむ1会訪問型グループ間の交流を活性化する。

3. スティバルに関して

- (1) ボラセンでこども向けボランティア教育を行っている。
- (2) コープでボラセンと同様な活動を行っているはず。

意見集約

情報を調査して、今後の活動の参考にする。

『2022 年度座談会実行委員会への事業提案』

- ・訪問型ボランティアの座談会を再度実施する
- ・訪問型ボランティアとは違う様々なジャンルのグループが集まって座談会を実施する

理由…訪問型ボランティアとしては第一回を実施したが、訪問型ボランティアグループがお互いを知り協力し合える関係を作る為

…ジャンル毎に問題点課題が違うのでそれぞれのジャンルによる座談会を開くニーズがある

『2022年度交流企画検討会への提案』

- ・ターゲットを子どもに決めてフェスティバルを行う
- ・YouTubeなどで配信する

理由…未来のボランティアとなる子どもたちにこむ1会のボランティアを知ってもらう

…コロナ禍の中、窮屈な生活を強いられている子どもたちに楽しんでもらう(ボランティアとしてニーズがある)

…宝塚福祉コミュニティにはフレミラ児童館もあり、そこに集まる子どもたちにぷらざこむ1を知ってもらう

…色々な職種・年代の老若男女に知って貰う一つのツールとしてYouTubeを導入する